

【樹木の部屋】

モクレン（モクレン科モクレン属 Magnolia quinquepeta もしくは Magnolia liliiflora）

和名：モクレン（木蓮、木蘭）

別名：シモクレン（紫木蓮）、ハネズ、モクレンゲ

英名：Mulan magnolia、Tulip magnolia、Lily magnolia

モクレン目 落葉低木

原産地：中国南西部

花言葉：自然への愛、持続性

花の色：複色（外側が紫で内側が白）



← 写真-1 モクレンの樹形

撮影日：2019.02.12

撮影場所：布引ハーブ園（神戸市）にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 モクレンの花

撮影日：2019.02.12

撮影場所：布引ハーブ園（神戸市）にて

撮影者：M さん



神戸市の布引ハーブ園内で見かけました。

花がランに似ていることから「木蘭（もくらん）」と呼ばれていたこともあるそうですが、今日では、ランよりもハスの花に似ているとして「木蓮（もくれん）」と呼ばれるようになったそうです。

別名のシモクレンは、花が紫色であることから。

小型で樹高3~5m程度。葉は互生で、広卵型、長さ8~10cm、先は尖ります。花期は春で濃い紅色から桃色。花弁は6枚、萼は3枚で上品な強い芳香を放ちます。ハクモクレンとは異なり、花びらは舌状で長い。モクレンは民家の庭に植えられることも多く、脇芽の伸びが早いためこまめな剪定が必要です。

また、平安時代中期に編纂された『和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)』にもその名が見られ、古い時代に中国から渡来したそうです。もともとは、観賞のためではなく、漢方で「辛夷」(しんい)と呼ばれる蕾を、頭痛や鼻炎の薬とするために植えられたようです。



← 写真-3 サラサモクレン

(Magnolia × soulangeana) の樹形

撮影日：2015年07月15日

撮影場所：インターラーケン

(スイス)にて

撮影者：M さん

↓ 写真-4 サラサモクレン

(Magnolia × soulangeana) の花

撮影日：2015年07月15日

撮影場所：インターラーケン

(スイス)にて

撮影者：M さん



写真-3、4はインターラーケン(スイス)のヘーエ通り散策中に見かけました。ヘーエ通りは、ヘーエマッテの向こうにユングフラウを見る事のできる、美しい通りです。反対側には商店が並んでいます。

葉の間から除いた半開きの花に誘われてシャッターを・・・日本で良く目にするモクレンとは、かなり雰囲気異なり、本当にモクレン?と思いつつ・・・

サラサモクレン(更紗木蓮、Magnolia × soulangeana)は、モクレンとハクモクレ

ンとの雑種で街路樹などに用いられるそうです。樹高は 6-10m と変化に富むそうです。花の形はハクモクレンに似て丸く、花の色は両種の間に対応するピンク色が基本だそうです。

→ 写真-5 サラサモクレン
(Magnolia × soulangeana) の花
撮影日：2019年02月20日
撮影場所：ポルト
(ポルトガル)にて
撮影者：M さん



写真-5はポルト(ポルトガル)の市内散策中の一コマです。市内いたるところで花盛りでした。ポルト=モクレンの街?と思われるかのように咲いていました。少数ですが、仲間のコブシやハクモクレンも・・・殆どがサラサモクレンのような感じでした。

<ちょっと一言>

*ハクモクレン(白木蓮、学名：Magnolia heptapeta)はモクレンの仲間で白色の花をつけます。しばしば、「モクレン」と混同され、「モクレン」と呼ばれることがあります。

*近年は、同じく中国原産のハクモクレンがより広く栽培されていますが、モクレンとハクモクレンは、花色以外にも大きく異なります。ハクモクレンは樹高20mに達する高木で、単幹で幹が太くなります。モクレンは、株立ちになりやすく、やや横に広がります。ハクモクレンは、花弁は9枚で、開花後に葉が出るのに対して、モクレンは、花弁が6枚、開花中に葉が出て花が終わるころには葉に隠れてしまいます。